

**サビエル生誕五百年**



**巡礼の道**

359

**藤屋 侃士**  
(下松市幸ヶ丘)

オーロラは見れるか？  
星野道夫の世界へもう一度

アラスカを旅したのは昨年五月末。福岡からアラスカのアンカレッジなどチャーター直行便で八時間、アラスカでの旅はクルーズで七泊八日。これなら余り疲れないだろうと「アラスカクルーズとアラスカ鉄道九日間」のツアーに参加した。

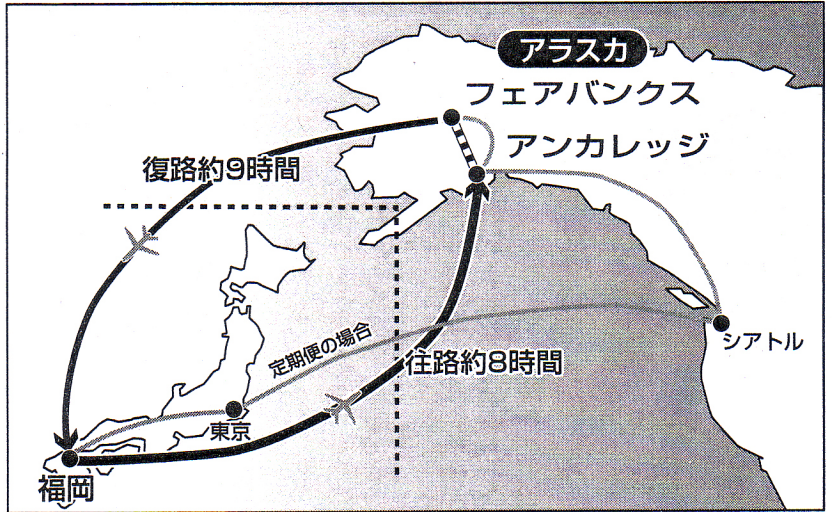
妻は病気の後遺症で左半身が多少不自由になり、つえを使い、短

時間しか歩けない。それまではヨーロッパから六日間とか、トルコ十五日間など長旅もできたが、もう無理だ。病氣以降は近い東南アジアの旅を中心に、余り歩くことのないツアーを選んで旅をしている。アラスカは定期便を利用すれば、待ち時間を含めると片道二十時間以上かかる。それがかもしれない。

半分以下、その上、現地での旅がクルーズだから楽だ。予想通り日常生活と余り変わらぬ元気でアラスカの旅を終えた。

今まではビジネスを利用するのはぜいたく

と検討の対象に入れていなかった。確かに高く、ヨーロッパならビジネス料金だけで二十六万円。それならもう一回、旅ができると思ってしまふ。しかし健康状態や空の旅を楽し



定期便の半分以下の時間でアラスカへ

むと思えば検討の余地ありだ。先日、バリ島クルーズに出かけた時、シンガポールまでビジネス機の中で待機もさることながら乗り換えの際のビジネスラウンジがゆったりとした気分

そんな状態の時、目に飛び込んだのが「秋のアラスカ、感動のオーロラの旅」だ。前回のアラスカの旅で写真家・星野道夫に出会った。彼は故人である

にしてくれる。金はなんとかなる、これからは若い時と違って多少高くても妻のため、いや自分自身のためにもビジネスでの旅を検討しようと思う。

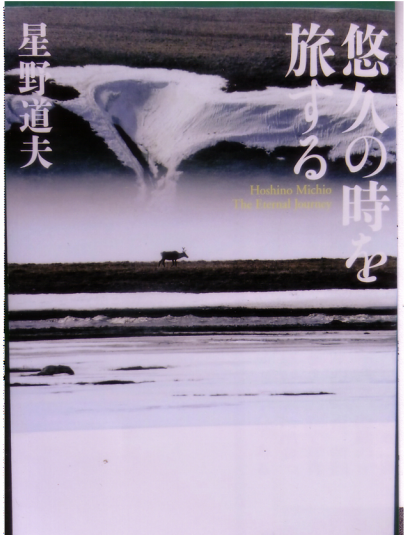
にもかかわらず、この一年余、外国への旅が減ったのは、被災地岩手に二回出かけたことと、もう一つの理由は旅の予約開始が三カ月前と余りに早いことだ。クルーズが含まれるとキャンセル料が発生するのは九十日前からである。高齢となり、三カ月後の自分の健康状態に確信が持てず、ついつい申し込むタイミングを外す。

が、その写真集と著作集を手にし、妻は大ファンになった。もう一度、星野道夫の世界を旅したい、これは二人の共通の願いだ。

前回のアラスカは北太平洋岸の船旅で氷河が中心。今回はアンカレッジまでは前回同様チャーター便の直行。そのあとはアラスカ鉄道でアラスカ内陸部を北上し、星野の作品にも何回も出て来るフェアバンクスに向かい、そこで三連泊でオーロラを見ろという。三連泊なら楽で、前回より短い七日間というものも妻に向いている。

出版は九月十一日、新聞広告を見て一週間後に申し込んでびっくり。もう満席でキャンセル待ちだという。今もってOKの返事はない。それでも早朝の散歩を再開し、体調管理につとめる。妻は昨年末、出版された星野の遺作を再編集した「悠久の時を旅する」を読む。

オーロラを見ることが出来るのか、仮に行けなくても今、アラスカの旅を楽しんでいる。



昨年出版された星野の遺作の写真集